

# 令和7年度 宮城県石巻高等学校 学校評価（自己評価・学校関係者評価） 集計結果

宮城県石巻高等学校  
学校評価検討委員会

## 1 自己評価（外部アンケート）

### （1）対象・回答数等

対象・区分	回答数	評価時期
教職員（自己評価）	31	令和7年12月
生徒（外部アンケート）	424	
保護者（外部アンケート）	153	

※7月に中間評価を実施し、  
年度途中の点検・見直しに  
取り組んだ。

### （2）質問項目・評価方法

○項目数 自己評価：21項目，外部アンケート：20項目

○評価方法（実現度評価：4段階）

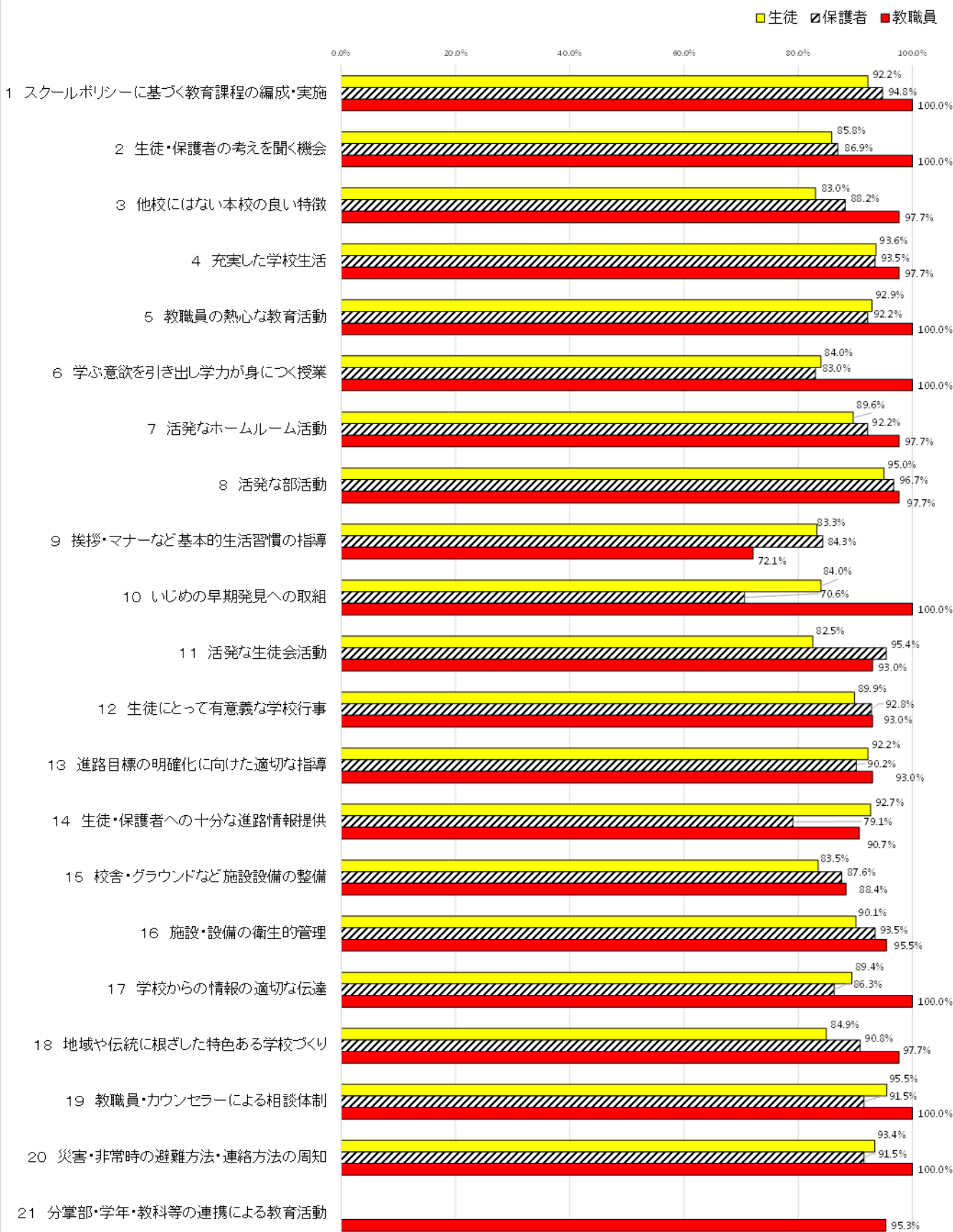
肯定的回答…「1 よく当てはまる」＋「2 だいたい当てはまる」

否定的回答…「3 あまり当てはまらない」＋「4 当てはまらない」

No	質問項目（1～20は自己評価・外部アンケート共通の内容）
1	本校では、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。
2	本校では、生徒や保護者の学校に対する考えを聞く機会を設けている。
3	本校には、他校にはない良い特徴がある。
4	生徒の学校生活は充実している。
5	本校では、教職員が熱心に日常の教育活動にあたっている。
6	本校では、生徒の学ぶ意欲を引き出し、学力が身につけられるような授業が行われている。
7	本校では、ホームルーム活動が活発に行われている。
8	本校では、部活動が活発に行われている。
9	本校では、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。
10	本校では、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。
11	本校では、生徒会活動が活発に行われている。
12	本校には、生徒にとって有意義な学校行事がある。
13	本校では、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。
14	本校では、進路に関する情報が生徒や保護者に十分に提供されている。
15	本校では、校舎やグラウンドなどの施設・設備が整備されている。
16	本校では、施設・設備が衛生的に管理されている。
17	本校では、学校からの情報が生徒や保護者に適切に伝えられている。
18	本校では、地域の伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。
19	本校では、教職員やカウンセラーが必要な時に相談に応じる体制ができています。
20	本校では、生徒や保護者に災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている。
21	本校では、分掌部や学年、教科等が連携しながら、教育活動に取り組んでいる。（※教職員対象）

### (3) 集計結果

令和7年度 学校評価 集計結果—肯定的回答の割合(%)—



#### (4) 自己評価の結果分析・考察

##### ●「1 スクールポリシーに基づく教育課程の編成・実施」について

○生徒・保護者・教職員全てにおいて肯定的回答が9割を超えている。生徒・保護者ともに本校のスクールポリシーを理解し、それに基づく教育課程の実施について評価しているととらえてよいだろう。引き続きスクールポリシーに基づいた教育活動を継続して行うようにする。

##### ●「2 生徒・保護者の考えを聞く機会」について

○肯定的回答の割合は全体的に高水準であるが、教職員と生徒・保護者との間に認識のずれがみられる。否定的回答の理由や生徒が求めていることを具体的に探るとともに生徒・保護者の考えを聞くための時間を創出する必要がある。

学校としては、面談の時間の確保のために4月には短縮授業、7月の三者面談期間には午前授業で対応している。担任と家庭との連絡も密に取っている状況から十分であると感じているが、それでもまだ不足と感じている生徒・保護者がいるということになる。今後も情報を適時発信し、生徒や保護者の考えを聞く機会があることを周知することに努めたい。

##### ●「3 他校にはない本校の良い特徴」について

○石高独自の教育理念「質実剛健・進取独創・自ら進運を開拓すべし」という精神が根付いており、生徒の自主性・主体的な活動が日常的にあり、3年間での心身の成長につながっている。次年度以降も鰐陵精神を醸成していく。

教職員のポイントが下がっているので、教職員が、学校の文化を理解し伝えていけるように働きかけていきたい。

##### ●「4 充実した学校生活」について

○昨年度と比較して大きな変化はない。図書情報学究部では、図書館の利用促進を目的に、季節や時期に応じた装飾や企画を実施するとともに、ICT機器の整備や効果的・効率的な活用に向けた支援を行った。今後も生徒・保護者からの理解が得られるよう、魅力ある学校作りや教育活動を継続的に展開していきたい。

##### ●「5 教職員の熱心な教育活動」について

○昨年度と比較して大きな変化はない。生徒・保護者ともに8～9割超の肯定的回答で、教職員の回答との極端な差も見られないので、現在の指導を継続していく。新たな教育実践の推進に向けて、ICT機器やAIの活用に関する情報や各種研修会について周知し、利活用する職員の割合は90%ほどいる。今後は、取り組みの質を高めるため、校内研修の開催を検討したい。

##### ●「6 学ぶ意欲を引き出し学力が身につく授業」について

○教職員はこれを目指して授業を行っているので、そういった授業を行える環境が整いつつある結果といえるのではないかと。一方、8割を超える生徒が肯定的な評価をしたことは良かったと感じるが、すべての生徒が意欲的に授業に臨んでいるわけではない状況があり、今後も意欲が低い生徒に対するケアとともに、学力が身につく授業についての研究を継続する必要がある。

## ● 「7 活発なホームルーム活動」について

○生徒・保護者の肯定的回答がやや減少しているが、全体的には高い水準なので、継続しつつより良い活動を目指す。次年度以降も、生徒主体で運営する学校祭（鰯陵祭）など、企画・運営を通して協調性やリーダーシップを育成していく。探究活動等の教科横断的な活動にも発展させていきたい。

○保護者の肯定的意見が減少し、教職員は増加しており、生徒については変化が無い点から、具体的活動が保護者に伝わっていないと推測される。生徒の主体的活動が増えてきているという評価と捉え、ホームルーム活動の様子等を発信する工夫をしていく。

## ● 「8 活発な部活動」について

○生徒・保護者は高い肯定的意見である。部活動を通し生徒の心身の成長につながるよう学校全体で取り組んでいきたい。専門性を必要とする部に関しては、外部指導者の力を有効に活用し指導を充実させていく。

## ● 「9 挨拶・マナーなど基本的生活習慣の指導」について

○生徒の肯定的回答が上昇しているが、それでも7割ほどである。生徒は「指導されている感」が低いようだが、各学年を中心に全体指導及び個別指導を実施している。一方で、指導が行われているかどうかの質問に対しての生徒の肯定的評価は、増加している方が問題と考えることもできる。学年の重点目標に則って指導を継続することで、生活習慣の確立を促していく。

○保護者のポイントが下がっているのは、1日の使い方や、生活習慣、学習習慣に課題があるように保護者は感じているのではないかと推察される。次年度も引き続き、全体指導や個別指導を行い、自己管理ツールの重要性や目標設定のあり方等を発信していきたい。

## ● 「10 いじめの早期発見に向けた取組」について

○肯定的回答が教職員100%に対し、生徒は8割、保護者は7割と開きが大きい。学校生活アンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・いじめ防止に努めているが、今後も教職員一丸となって取り組む必要がある。多方面からの注意深い観察や情報収集等のいじめを見逃さない努力や誠意ある対応を行うことで生徒・保護者の理解を得られるようにしていきたい。

○生徒のポイントは前年度より上がっている一方で、保護者のポイントが下がっている。学校生活アンケート等のタイミングや、いじめの早期発見に向けた組織的な取組を保護者に周知する機会を検討したい。また、保護者面談等を通じて、家庭内のいじめに対する不安や懸念材料を把握し、生徒が安心して通えるように、引き続き組織的に取り組んでいく。

## ● 「11 活発な生徒会活動」について

○生徒会総務・各種委員会が中心となり学校行事や対外的な行事への参加・企画・運営に積極的に係わり活動している。引き続き様々な活動に取り組んでいけるよう指導を継続していく。

## ● 「12 生徒にとって有意義な学校行事」について

○全体でポイントが上がっている。生徒主体での取組による達成感が増えていることが、百周年記念式典等からもうかがえた。石巻高校生としての信条が根付いていると考える。今後も生徒の自主性を重んじる指導を継続していくとともに、生徒の主体性を大切にしながら、より良い学校行事になるように準備していく。

### ● 「13 進路目標の明確化に向けた適切な指導」について

○保護者・教職員の評価が昨年度より上昇した一方、生徒の評価はやや低下した。大学等上級学校への進学を目指す生徒が依然として多数を占めており、適切に目標の明確化へとつながる指導に引き続き取り組みたい。担任による定期的な個人面談の実施で多様な進路の情報提供を実施したことで、生徒が進路実現へ向けての学習には励むことができた。

### ● 「14 生徒・保護者への十分な進路情報提供」について

○入試の多様化や共通テストの出願など変更点も多く、その対応に執心してしまい全体的な情報発信がやや足りなかった。早急に改善に取り組む。これまでの情報発信に加えて、特に保護者に対しては、取組についての理解につながる発信を行う。

### ● 「15 校舎・グラウンドなど施設設備の整備」について

○生徒アンケートのポイントは、今年度は昨年度と比較して0.1ポイントの上昇があり肯定的回答が83.5%だった。令和5年度と6年度にトイレの洋式化工事が実施されたことにより、令和6年度以降は肯定的な回答が83%以上となっている。保護者は1.3ポイント減少し87.6%、教職員についても1.6ポイント減少し88.4%と若干減少したもののほぼ肯定的回答であった。今年度は照明のLED化工事を行っているが、今後も生徒及び職員の安全確保と施設・設備の充実のために、効果的な施設整備計画の見直しを図り、粘り強く県への要望を行っていききたい。

### ● 「16 施設・設備の衛生的管理」について

○昨年度と比較して生徒は3.5ポイントの増加となった。保護者及び教職員については若干の増減はあるがほぼ変化がない。この結果については、引き続きトイレの業者による清掃や階段・廊下の業者によるワックス塗布等を予算を確保し実施していることが、衛生的に管理されていることを実感できているためと思われる。今後も予算の確保や、劣化に伴う設備の更新費用の確保等を計画的に県に要望し、効果的な施設設備の維持管理を行っていききたい。また、生徒自身の美化意識の啓発や校内美化に対する主体的・積極的な活動を促していききたい。

### ● 「17 学校からの情報の適切な伝達」について

○肯定的回答が昨年度より上昇しているが、9割弱にとどまっている。学校の教育活動の様子をその都度ホームページで紹介するとともに、月1回発行の鰯陵通信などを通じて、適時性を意識した情報発信を行った。これまでの取組を継続しつつ、理解につながる発信を行う。

### ● 「18 地域の伝統に根ざした特色ある学校づくり」について

○教職員・生徒の肯定的回答が上昇しているが保護者は減少している。本校の現状として地域の伝統に根ざした学校づくりの取り組みを増やしにくい面もある。「総合的な探究の時間」の取組を継続し、その理解につながる発信も行っていく。

● 「19 教職員・カウンセラーによる相談体制」について

○教職員のみならず、SCやSSWと連携し、生徒が充実した学校生活を送れるような体制が提供できた。今後も密に連携を取りながら生徒への支援を行っていく。本校のSC・SSWによる教育相談は充実しているが、カウンセリングを必要とする生徒や保護者が増加し、相談内容も深刻さを増している状況である。

● 「20 災害・非常時の避難方法・連絡方法の周知」について

○生徒向けの定期的な避難訓練の実施による避難方法の確認や、緊急連絡メールを活用した生徒や保護者等への連絡を実施できた。今後も緊急時における迅速な情報提供及び情報共有を行っていく。命に関わることなので丁寧な指導と保護者への提示を心がける。

● 「21 分掌部・学年・教科等の連携による教育活動」について

○教職員が連携を取りながら、生徒が実りある教育活動になるような取組ができた。教育活動における様々な課題に対して、今後も組織的な連携を意識しながら対応していくことが必要である。特に、生徒の進路実現や学校生活が安全・安心に送れるように学年や分掌等の垣根を超えた支援が必要だと考える。

## 2 学校関係者評価

(1) 評価者 本校学校評議員(5名)

(2) 評価時期 令和8年3月

(3) 自己評価結果に対する評価

◆評価段階

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 教育課程の見直し・改善について	B	教育課程について各教科毎に問題点や課題について検討し、全体で共有した。	B	B
	② 評価の観点に基づいた評価方法の検証について	B	評価に関する校内共有事項の改善を図り、審査問題を観点別に分類し、その妥当性等、全体で共有した。	B	B
	③ 多様な学習ニーズに対応した学びの推進について	B	不登校傾向にある生徒に対しては、担任や学年団、教科担任と連携しながら個々に対応することができた。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	対面での学びや総合的な探究の時間における学習活動などが本来の姿を取り戻し、石巻高校らしい活気ある学習環境が整ってきている。十分に丁寧な指導がなされ、基礎学力の定着とともに、思考力・判断力・表現力を育てる指導が着実に実行されていると評価する。				
生徒指導	① 気概に満ちた生徒の育成について	B	自己管理や自己調整が苦手な生徒が増えてきている。苦手な分野に対しての取り組み方の育成が必要である。	B	B
	② 主体的で自立した生徒の育成について	B	一定の成果は出ている。場面ごとの指導を充実させ、自ら進運を開拓する能動的な姿勢を求めていく。	B	B
	③ 協働性と自己調整力を備えた生徒の育成について	B	小集団による協働的な学びが深まっている。定期的なアンケートの実施や他者を思いやる気持ちの育成を図った。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	生徒が互いを尊重しながら、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。運動部・文化部ともに、部活動が充実している点も評価できる。いじめの早期発見についての保護者からの評価が低い点は真摯に受け止め、原因を分析し、温床となる事象を排していく必要があるが、事実に基づかない噂によって保護者が混乱しないよう、家庭側にも注意を払っていただきたい。				
進路指導	① 自らの将来を見据え、能力と適性を活かす進路の実現について	B	学年・部・教科との連携を密に取り、円滑な業務運営をすすめることができた。	B	B
	② 生徒の学力把握とその向上について	B	模試などのデータを分析し、それらのフィードバックを行うことで、今後の学習の改善を目指した。	B	B
	③ 受験の多様化や大学入試制度の変化への速やかな対応について	B	受験形態の多様化を生徒に周知し、小論文、志望理由書、面接の指導を全教職員の協力のもとで充実させた。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	生徒の学力層が多様化し、進路もより多様化すると思われる。生徒に合わせた情報の提供を今後もさらに進めてほしい。総合型選抜などは大学ごとに内容が全く違うので、それらの調査・情報収集などの一次的対応を生徒本人や家庭が全面的に行えるような指導も必要と考える。				
地域連携	① 地域・社会貢献活動への参加姿勢の育成について	B	総合的な探究の時間の活動も含めて、地域や社会にも目が向いてきている。	B	B
	② 学校広報・情報発信の充実について	B	学校便り発行と学校ホームページでの情報発信に努めた。新聞等のマスコミへの投げこみによるPRにも注力した。	B	B
	③ 外部機関との連携の充実について	B	総合的な探究の時間を中心に、「社会に開かれた教育課程」を念頭に入れ、各種外部機関との連携を図った。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	生徒たちの活動が、地元誌に取り上げられていることは注目に値する。しっかりと地元の人たちに知ってもらうことがより重要と考える。生徒たちが地域の伝統行事にボランティアとして参加してくれていることも大変ありがたい。				

### ●次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 教育課程の見直し・改善	総合的な探究の時間を核とした教科横断的な授業実践について、計画的に各教科の連携を深めながら進めていく。
② 自覚と責任に基づく学校生活	自己管理のツールを準備したい。石高生としての自覚を持てるような仕組みを考えたい。
③ 多様化する進路や入試制度への適切な対応	小論文・面接担当についてはチューター制を取り入れ、全教員で対応する。情報発信にも力を入れていく。